

千代田区「元副区長の関与確認できず」

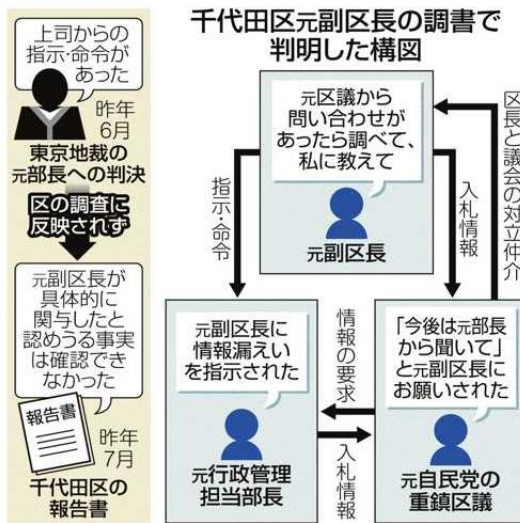
官製談合 幕引きに疑義

「17年から情報漏えい」供述判明

東京都千代田区で2024年に発覚した自民党の重鎮区議と部長による官製談合は、17年夏に区政ナンバー2の元副区長が、区議に入札情報の漏えいを始めたことが発端だったことが分かった。東京地裁の取り調べに供述し、区議の要望に応じ、入札情報を調べるよう部下の部長に指示したと詳細に説明していた。区は元副区長の関与を「確認できなかった」とした調査結果を公表しているが、その信頼性が大きく揺らいだ。

(小沢慧一、佐藤航) 組織ぐるみ鮮明⑧面

千代田区元副区長の調書で判明した構図



用語解説 千代田区官製談合事件 2020年5月の区稚園改築関連工事の一般競争入札で、業者に最低制限価格に近い額や参加業者数を漏らしたとして、警視庁は24年1月、官製談合防止法違反容疑で、自民党会派区議2逮捕後に辞職し、元区行政管理担当部長を逮捕。東京地裁は同年6月、元部長に懲役1年6月、執行猶予3年、7月にはあつせん収賄罪にも問われた元区議に懲役2年6月、執行猶予4年、追徴金約32万円の有罪判決を言い渡した。業者側の容疑はいずれも3年の公訴時効が成立し、立件されなかった。

調書閲覧の区議 議会でも矛盾追及へ

元副区長は13年10月から8年間その立場を務め、事件では立件されなかった。逮捕、起訴された元区議と元行政管理担当部長の刑事確定記録の開示を、岩田一仁区議らが地検に請求。2月に閲覧が認められ、地検が事件の参考人として任意で調べた元副区長の供述調書を確認した。区議は供述内容をまとめた資料を議会に提出し、6日の区議会一般質問で区長をたずねた。本紙が入手した資料によると、元副区長は17年夏、石川雅己前区長と対立していた区議会との関係改善に協力してもらった元区議の求めに応じ、入札情報を漏えいした。18年には元部長を副区長室に呼び、「もし区議から私に契約に関して問い合わせがあった場合には、部長の方で調べて、私に報告してもらいたい」と指示したことも認めていた。

この指示について元区議も地検の調べで証言している。元副区長から「今後の入札に関する情報は部長から聞いてくれないか」と伝えられたことを明かした。本紙の取材に、元副区長は「私は捜査にも区の有識者会議にも協力して結論は出た。話すことはない」、元区議は「公の場で話したし、(区)の調査でも全て話した。それ以上でも以下でもない」と答えた。

元副区長の関与については、元部長が自身の裁判で「指示があった」と説明し、昨年6月の東京地裁判決が「上司から指示・命令があった」と認定した。ところが、区はこの判決をまとめた報告書で、弁護士でつくる有識者会議による職員らへのヒアリングなどを踏まえて「副区長が具体的に関与したと認めうる事実は確認できなかった」と結論付け、事件への組織的な関与を否定していた。樋口高副区長は取材に文書で「資料は議会でも受理されておらず確認できない。資料を前提とする質問には答えられない」とした。